



相談室開室一年にあたり

HEART to HEART

tea time

1~2月こうのとり外来の成績

INFORMATION

編集後記

---



ちょっとお茶でもいかがですか？  
日頃皆さんの思っている事やつづ  
やきをのせていくコーナーです。

### 🌸 K・Kさん 🌸

吉川先生、スタッフの方々いつもありがとうございます。  
私は現在49歳です。不妊治療を始めて6年、諏訪マタでは3年目になります。当初から、年齢的には難しいとは思いつつ諦める事ができず悪戯に月日は過ぎ去りました。高額医療費に加えて良い結果も出せず悪い方悪い方へと考えが進む自分に腹立ち、治療に理解のある優しい夫ゆえにその思いを言えず一人悶々としていました。そんな時に倶楽部kounotoriが創刊されました。16年間不妊治療を行っている47歳のYさんの記事に勇気とパワーを頂きました。そして相談室に飛び込む事が出来て話しを聞いて頂き、胸のつかえがとれ何か救われたような気持ちになりました。Yさんの様に16年間という長期にわたり治療されてくる中で吉川先生という信頼のできる先生に出会え、精一杯治療して納得して不妊治療にピリオドが打てた事は幸せな事ではないでしょうか。今の私にはまだ諦めという事はイコール後悔になるので治療を辞める事は出来ません。"また駄目だった、何度挑戦すればいいの？次は大丈夫なの？"誰にも解らないそんな事を挫折しかけたある時に先生の前で言っていました。『諦めたらそれで終わり。女性としての機能が働いている間は可能性があるのだから頑張っ！』その言葉に元気づけられ頑張る勇気が湧いて来ました。先日もまた移植の日に"こんないい年をしてまだ諦めきれないよ。そんなのが辛いし恥ずかしく思う"と培養士の方に愚痴ったら、『戻さなければ結果も出ないし先には進めない。幸いにも採卵した卵は戻せる確率が高い方なんだから前向きに頑張りましょう』と励ましてもらいました。またマイナスな気分になる事もあるとは思いますが、そんな時は倶楽部kounotoriを読み直したり、話しを聞いてもらいに相談室を訪ねてみたりするつもりです。吉川先生を信じて希望を持って不妊治療を続けている方々、年齢、環境、経済面、それぞれ条件に違いはありますが私達の目的は同じです。お互いに頑張りましょうね。我が子をこの手に抱きたい、そして抱かせてあげるその日が来るのも近いと願いつつ・・



### 🌸 Y・Oさん 🌸

倶楽部-Kounotori読ませて頂きました。私も不妊治療、体外受精を受けた一人です。平成14年の11月に、欲しくて欲しくて何度も産婦人科に通院しやっとの妊娠で喜んで居たのも束の間。7週になっても赤ちゃんはモニターに写らず、出血も増えたまらなく不安になって転院したのがここ諏訪マタニティーでした。内診の結果不安は的中し子宮外妊娠でした。あまりのショックに頭の中は真っ白になり、帰りの車の中でただただ悔しくて悲しくて泣きました。受精卵が着床した卵管を切除する手術をした後先生から、"もう片方の卵管も癒着しているから自然妊娠は無理なので体外受精という方法をとりましょう"そう言われた時、何故か迷いはしませんでした。ショックはショックでしたが、自分の

中であれだけ悲しくて悩んでいたのが吹っ切れたような気がして「体外受精しか子供を授かる手段がないのならやってみようじゃないの!」そんな思いで一杯でした。手術から3か月後、夫にはもう少し体を休めた方がいいんじゃないの?と云われましたが、一日でも早くトライしたかったので決心しました。受精卵を子宮に戻してから結果が分かるまでの2週間、こんなにも自分の体を大切に思った事はないんじゃないかという程お腹になるべく力を入れないように気を遣い、卵がくっついたイメージを毎日毎日何度も繰り返してみたりして結果を待ちました。そしてなんと双子のお母さんになれました。一度に二つの命を授かって不安はありましたが最初の妊娠で生まれて来れなかった子の分とも思い嬉しく受け止めました。不妊治療は体力も気力も周囲の協力もたくさんたくさん必要です。自分が引け目を感じていると考えなくてもいい事まで考え悩んでしまいます。諏訪マタにはどうして?!と言う位悩みや心配を聞いてくれるスタッフがたくさんいます。本当に私もどれだけの人達に励まされ悩みを打ち明けたか分かりません。不妊治療にこれから足を踏み入れる方、すでに治療をされている方、諏訪マタのスタッフはみんなみんな私達の味方です。

## 相談室開室一年にあたり

吉川文彦



相談室がオープンして一年が経過しました。私が当諏訪マタニティークリニックで診療を開始した96年当初より不妊治療におけるカウンセリングの必要性は痛感していました。本当のところは、不妊患者さんの悩みなどすぐ解消するよう、治療を始めたらずべて一月二月で妊娠に至る医療を目標にしているのですが…。現実にはそう簡単に妊娠をもたらしてはくれません。昨年、人に恵まれ、ようやく相談室をスタートさせることができました。相談室に訪れて下さった方、すべての方が満足しているわけではないと思いますが、さらに患者さんにとって頼りになるものへ日々努力を重ねていきたいと考えています。

## HEART to HEART

当院には全国各地から大勢の患者さんがお見えになります。みなさんそれぞれの思いを持って受診されますが、今回のHEARTtoHEARTではそんな思いが叶い、晴れて諏訪マタを卒業されていった3名の方々にご登場頂きました。

### 『 諏訪マタを卒業する日 ～夫婦の絆と～ 』

#### 〈R・Oさんの場合〉

"子供がいない夫婦二人だけの生き方だってあるんだから"  
私達夫婦が不妊と分かった時私の大事な友達が心から心配してかけてくれた言葉でした。が、彼女はその時二人の女の子のお母さんでした。自分達に子供が出来ない・・・分かった時は本当に何も考えられずまさか、どうして、なんで私達なのと何度も思いました。そしてその原因は主人にあり病名を無精子症と告げられた時、絶望でいっぱいでした。どれだけ時間が過ぎたか、横にいる主人を見るとあえて冷静であるように感じました。絶望と思ったのは女性より男性の不妊の方がはるかに難しく、精子の数が少ないとか運動率が悪いならまだ望みはあるのに無精子症ではという考えがあったからで、主人は"ごめんな、俺のせいだもんな"と何回も言いその姿を見て、「この人はどれだけ辛い気持ちを我慢しているのだろうか。私の何倍も声をだして泣きたかったはず。私の方に原因があったのなら楽だったのに」と思いました。その後主人は出来る限りの治療を受けて頑張るからと言い、数カ所の病院を周り精子が見つかる確率は20%という手術に望むことになりました。とても大きな期待をしていただけに一週間後の結果には大きな落胆をしました。怖くて怖くてたまらなかつたら手術の、体の傷もさることながら心

の傷はどんなだったのかと。抜糸の時に、他に方法はないのか、もう一度手術したら何とかなるのかと必死で聞いたそうです。それについての医師の回答は二つ。他人の精子を使うか、養子をもらうか道は二つだと。どちらにも心は向きませんでした。

#### 前向きにやっ払いこう、可能性は0じゃないと信じて

そんな時知り合いの方から私の身内も通院しているけれど悪くはないと思うと、諏訪マタニティークリニックのホームページのアドレスを書いたメモを頂きました。名前だけは知っていました。しばらく二人でいろいろと話し合いました。そして出た結論は『やっぱり前向きにやっ払いこう、可能性は0じゃないと信じてチャレンジしよう』そして諏訪マタニティークリニックへの来院を決めました。私達夫婦は30代後半である事、体外受精でしか授かる方法はないという事、そして主人の検査結果から妊娠できる確率もそんなに高くはないだろうという事。本当に恥しいような金銭面の質問やら今までの治療での不安出来事もろもろを相談室で話しました。そこでは私達とちゃんと同じ目線で聞いて頂き、主人の状況を踏まえての今後の流れやメドをきちんと担当のスタッフの方から納得するまで説明して頂きました。その時間のお陰で採卵及び精子回収術への気持ちが固まりました。それに、前の病院では説明になかった、体調や季節により精子が見つかる可能性がある事、一回の手術が駄目でも二回目、三回目で精子が見つかった例もある事など聞きもう迷いは全くなくなりました。そして体外受精をしました。

私達の卵子が分割をしていると聞いた時嬉しくて嬉しくて二人で抱き合って声を上げて泣きました。分割したって言う事は精子が見つかったという事なんだよね、そう主人に言ったら、主人はボロボロと涙を流していました。この人は本当にどれだけ苦しかったんだろうかと改めて思い直しました。どうしてもこの人に赤ちゃんを抱かせてあげたいと強く思いました。戻せたこの卵がきちんと育ち、無事に出産までいける事を今はただ祈るだけです。もしもなんて考えたくはないけれど、もし今回が駄目でも又私達はチャレンジしていくつもりです。特に主人は前向きに考えているみたいです。『こんな日がくるなんて』二人で奇跡を起こして頂いた吉川先生をはじめ病院の皆さんに心から感謝しています。



#### 〈H・Mさんの場合〉

夫自身が落ち込みを表に出していたのなら私達の関係は泥沼になっていたかも知れない

おひさしぶりです。vol.2で原稿を書いたH.Mです。吉川先生をはじめスタッフの方々のおかげで無事習慣流産を乗り越え、今五ヶ月になりました。諏訪マタを卒業するに当たりもう一度投稿させていただきます。そちらでお世話になった三年間は本当に喜怒哀楽そのものでした。諏訪マタを訪れる前に地元の病院で検査を受け、原因は夫側にあることを知り、その事実をどう夫を傷つけないで告げる事ができるのかと大変悩みました。幾つかの病院を回りましたが結果はどこも同じ。絶望的だと落ち込む私とは対照的にあまり何も考えていないように見えた夫に、何故私がかんなにも悩まなくてはいけなのだろうか?と秘かに苛立ちを覚えていた時期でもありました。しかし、入院までして検査をしたのに結果が変わらなかった



時には、夫は"自殺しようかと思った"という事を後になってから知り、見た目にはわからなかった夫の辛さとは一体どれ程のものだったのかと思ひ知りました。もし、夫自身が落ち込みを表に出していたのなら私達の関係は泥沼になっていたのかも知れない、ひょっとして夫婦でいることもなくなっていたかも知れない。そんな事を思った時もう泣き虫な私ではいけない、これ以上夫に重荷を背負わせたら治療どころの騒ぎではなくなると思いました。

#### 涙は流れ続けるのではなく止まっては流れるの繰り返し

そんな経過を経て知人の紹介で諏訪マタを訪れたのが三年前でした。通院してじきに妊娠が出来た時は本当にうれしくて夫婦で抱き合いました。でもその喜びもつかの間、心拍が見えての初期流産。次の妊娠も同じ形の流産。2度あることは3度ある、こんな時にこんな言葉を使いたくはないのだけどその次の妊娠も心臓が動かずに流産となってしまいました。初期の流産は母体側の原因ではなく受精卵の力が弱いせいと言われましたが、それが十分な説明を受けて分かっているつもりでもやはり自分を責めてしまうのです。先生方のお陰で妊娠することは出来るのですが、喜びを味わっているとどん底に突き落とされる私は、妊娠した喜びを味わいたいのではなく私の手で我が子を抱く喜びを感じたいのと思いました。涙があふれました。涙は流れ続けるのではなく止まっては流れるの繰り返しなんです。そんな私を見て

るのが辛かったのでしょうか、夫が"もういいよ、あきらめよ。そんなに苦しむ君を見たくない"と。その時夫も涙を流していました。二人で楽しく暮らしている夫婦も

いるしそう考えようともしましたが、『あと1年、何とかがんばって子煩悩な夫に子供を抱かせてあげたい』その願いの方が強くて勇気をだして治療を再開しました。そしてその後のトライが今となったのです。

私が治療をしてきて思ったのは長くなればなる程心の拠り所がほしくなるという事です。その点では諏訪マタには最高のこのとり相談室があります。どん底から復活して治療を再開した時に丁度オープンした相談室は私達夫婦には本当になくはない存在でした。諏訪マタを卒業して地元の病院で出産をする私ですが、このとり外来に通っている一人でも多くの方々にコウノトリが飛んで来てくれる事を心からお祈りしています。

#### 〈T・Kさんの場合〉

##### 「一瞬先は光」その言葉を合言葉のように口に出して

平成13年8月深夜、夫の交通事故を知らせる電話です。緊急手術に次いで低体温療法とその後6ヶ月間で計6回に及ぶ手術を行いましたが一向に回復せず、体は日毎に硬直して動きませんでした。その後車椅子に座ったまま全く身動きできない状態でしたがリハビリをスタートさせました。そんなある日病院のロビーでテレビを見ていた時の事、「一瞬先は光」という言葉が耳に飛び込んで来ました。それからはその言葉を二人の合言葉のように口に出して何とか光が見えるようにと希望を持って頑張りました。その結果リハビリの先生方のご尽力と本人の

並々ならぬ努力の成果によって主人に奇跡がおきました。平成15年4月、一人で歩けるようになりリハビリも通院で出来るまでになりました。命と、そして一緒に過ごす時間の尊さを感じました。主人をこんなにいとおしくまたそばに居られる自分もいとおしく思う日々次への願いが出て来たのです。私達の子供が欲しい・・・。

#### 赤ちゃんが生まれて来るまでにりっぱなお父さんになれるようにガンバっています

8年ぶりに受診をしたのが9月でした。マッチ棒位の筋腫が十数個ある、右卵巣嚢腫、左チョコレート嚢腫、年齢的にも時間はそう残されていないという予想を上回る厳しい結果で診察室をでました。そのまま通されたこのとり相談室では、27歳から始めた不妊治療の副作用による体調不良の事、その改善の為に漢方薬に頼っていた事、夫の事故の事、これに限られた時間ではあってもどうしても妊娠に挑戦したい事etc。話しの内容は今までの辛かった事ばかりでしたが、この時は何故か不思議と楽な気持ちでそこで話しをして居ました。

今までの経験からしても不妊治療は痛みと精神的苦痛は付き物だと覚悟して来たのですが諏訪マタのこの日の診察では全くそんなものはありませんでした。むしろ癒されたと言う感じ。そして次回の診察日が待ち遠しくて夫も大事なりハビリを休み1時間半の道のりを二人で通って来ました。実際の治療に入り緊張と不安でいた時にかけて頂いた言葉やうまくいかなかった時に申し訳なさそうにされたお顔。説明も単刀直入であり分かりやすく頼もしい限りのそんな吉川先生が私達夫婦は大好きでした。待ち時間には倶楽部-Kounotoriを読んで励まされ、Smileでは院長先生のお人柄に触れ私達のように心に傷を持つ患者を優しく受け入れてくれる病院であると感じました。そして吉川先生の、先生教えてのコーナーで私達が他院でやってきていた不妊治療は誤りであったと知りました。12月"妊娠してますね"という先生からの夢の様な言葉に体中の力が抜けてしばらく立ち上がれませんでした。結婚17年目にして夫の奇跡について授かった命。今12週となりお陰様で順調です。吉川先生に出会えた幸運と感謝の気持ちをこの倶楽部-kounotoriに残してここ諏訪マタを卒業いたします。諏訪マタニティーの皆さんありがとうございました。

夫より

不妊治療は15年間いろいろな病院へ行ってみたり漢方薬がいいと聞くと行って試してみたりもしました。3年前に私が交通事故で障害者になってしまい赤ちゃんはもう無理だと思っていましたがそんな時に妻が諏訪マタニティーの話しを雑誌で知り二人して吉川先生の診察を受けてみたら、希望の光が見えてきてしばらく通院しました。結婚17年目で今赤ちゃんを授かり二人で本当に大喜びしました。それからの私は今まで通りリハビリも通いながら妻のサポートもしています。赤ちゃんが生まれて来るまでにりっぱなお父さんになれるようにガンバっています。最後に吉川先生と諏訪マタニティーの皆様方への感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。さようなら。

